

そうじの力だより

VOL.216



支援事例紹介

現場の力が会社の力
→そうじの力で現場力を上げる

岐阜県の製造業（株マツバラ。ここで、十三年前から、弊社のお手伝いにより、全社をあげての『おそうじパワーアップ活動』が続けられています。

鋳物屋とも呼ばれる鋳造業は、鋳型を砂で作るため、製造工程で大量の粉塵が発生します。また、鉄の原材料を千五百℃という高温で溶かして鋳型に流し込むため、火花も散ります。鋳造業は、もともと過酷な製造業の一つではないでしょうか。

平成二四年四月、松原史尚社長は、『お掃除宣言文』を発令し、「経営の最重要課題として、全社一丸の掃除に取り組む」ことを宣言しました。

各部署で、毎日やること、週ごとやること、そして月次でやることを決めて、計画書を作成し、それに則つて活動を進めています。

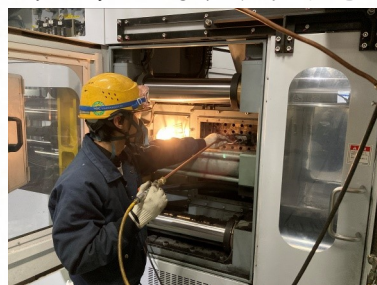
当初、工場には、粉塵が山のように積もって地肌が見えない所もありましたが、今では蛍光灯の光が反射するほどにピカピカになっています。



粉塵が除去されたベルトコンベア周囲

また、工具や資材などの置き場所や置き方も、あいまいな部分がありま

したが、細かいところまで、定位置化されるようになりました。

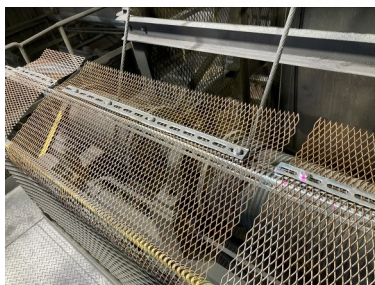


造型機の内部をエアで吹きそうじする

この十三年間、過酷な環境の中、社員さんたちはコツコツと一生懸命にそうじに取り組んでくれました。十三年の間には、紆余曲折もあり、マンネリ化して活動が停滞した時期もありました。

しかしここに来て、再び活動が活発になってきました。

毎月一回、必ず調整日を設定して、生産をせざるに、そうじやメンテナンス、教育などを行っていただきます。そのおかげで、これまでになかなか手が回らなかった課題にもメスが入るようになってきました。



巻き込まれ防止のために新設された柵

年に二回、『おそうじパワーアップ活

動』の発表会と表彰式が行われます。コロナ禍で三年間、皆を集めての会は行われていなかったのですが、四月十七日、久しぶりに全社員が集合しての会が行われました。



久しぶりに全員が集合した発表会

同社の表彰の特徴は、現場系部署と事務系部署が、まったく同じ土俵で採点される、ということ。当然、現場系はハンデがあるわけですが、審査方法を工夫して、現場系でも上位になれるようにしてあります。それでも、ここ数年は現場系が苦戦していました。

今回、久しぶりに現場系が金賞に輝きました。他の現場系の部署の順位も、じわじわと上がってきています。



金賞に輝いた設備保全係

もともと評価の高かった事務系部署は、さらに進化が見られ、そこに現場系部署がからんでくる、理想的な表彰レースの展開でした。それぞれの部署が、安全性や生産性、快適性やコスト意識を上げるべく、工夫して努力しています。また、発生源対策などにより、汚れない工夫、すなわち、そうじが楽にできるような工夫にも取り組んでいます。

各部署のリーダーたちが旗を振り、他の社員を巻き込んで、活動が盛り上がっています。その結果、単にキレイになった、というだけでなく、主体性や創意工夫といった社員の意識が上がってきているようです。



松原史尚社長の講話

松原史尚社長も、今期はあらためて、安全面の対策を見直し、よりいっそう安全で快適な工場を目指す決意を語ってくれています。（小早）

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



コラム

常識を疑え！

～素手の感覚を大切にしたい～

私は、トイレそうじをする際には、素手でします。手袋はしません。理由はいくつかあります。

まず、素手の感覚で、汚れ具合を確認できること。便器表面を素手で触つて、ザラツとしたりヌメツとしたりした場合に、汚れがついていると判断できます。逆に、キュツとした感覚ならば、汚れはななく、キレイな状態だと判断できます。

また、手袋をしたままだと、雑巾もしつかり絞ることができません。

何より、手袋をしなくてもいくらくらいにキレイにするのが、そうじのあるべき姿だと考えています。

同様に、食器洗いの際にも、手袋はしません。手袋をしていては、きちんと汚れが落ちているのかどうか、わかりません。

油分が残っていたり、洗剤がすすぎていないと、食器の表面がヌルヌルします。食器の表面を素手で触つて、キュキュツとした感触になれば、キレイになったと判断できます。

古い話になりますが、私は阪神タイガースの掛布雅之選手が大好きでした。掛布選手は、バットを握る手に、手袋はせず、最後まで素手でした。理由を聞かれると、「素手の感覚を大切にしたい」とのことでした。そういうえば、王貞治選手も、ずっと素手でバットを握っていました。

考えてみれば、テニスも素手でラケットを握ります。アマチュアプレイヤーの中には、手袋をする人もいますが、プロテニス選手で手袋をしている人は、見たことがありません。

やはり、手袋をしていては、繊細な感覚が伝わらないのでしよう。

さて、コロナ対策として、スーパーマーケットのレジ打ちの人たちがニトリル手袋をするようになりました。いまや、すっかり定着した感もあり、いまだに多くの人から手袋をしています。

はたして、

これに意味

はあるので

しょうか？

本当に清潔

なのでしょう

か？



確かに、手袋をした瞬間は、衛生的でしょう。本人の持つウイルスや細菌は、触れた物には付着しません。触った商品やお金にウイルスや細菌が付着していた場合にも、手袋があれば感染は防げます。

しかし、それを数回続けていけば、すぐにその手袋が汚染されてしまいます。汚染された手袋で、別の客の相手をするのですから、感染が拡がることを防ぐことはできません。

また、長時間にわたつてニトリル手袋をしていると、中の手が汗にまみれてヌルルになってしまう。手袋をしている本人の健康に、良くないはず。

本当に清潔にしようとするならば、むしろ素手で、頻繁に手洗いをするほうが、よほど効果があると考えます。

そろそろ、コロナについての「常識」を疑つて、我われ人間に本来備わっている感覚を取り戻しませんか。
(小早)

ツイッターで、『環境整備 一日一言』を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！

編集後記

合宿

先日、1泊2日で、山中湖で行われた合気道の合宿に参加してきました。

「合宿」って、なんとも懐かしい響きです。学生時代には、私も、柔道部で、夏になると、山や海で、合宿をしました。昼は汗だくで練習して、夜は浴びるほどの酒を飲んで、大騒ぎをしたものです。

まさか、この歳になって、こうした合宿に参加することになるとは、思っていませんでした。でも、たまには、こうしたイベントも、楽しいものです。
(小早)



飛鳥のつばやき

天然はいずこ

子に自然体験させたく、常にアンテナを張っている田舎育ち母。

わが市では、どうやら天然の蛍がまだ見られるという情報を仕入れ、地元ライオンズクラブ主催の「蛍を見る会」に長男と行ってきました。

暗くなってくるにつれ、ちらほら飛び始める蛍たち。

見つけては「光ったー！」「すごいね！」と喜んでみると、「1時間前に300匹放しました！」とアナウンスが。

業者のホテルだったか……(^q^)

(大概)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)